

お客様各位

モリナガ アクリルアミド EIA キット 変更点のご案内

株式会社 森永生科学研究所

モリナガ アクリルアミド EIA キット測定キットの変更点について、以下のようにご説明いたします。
なお、商品名や希望小売価格については変更ないため、改良品との区別はロットナンバーおよびキットの外観（外箱のデザインが変更となります）により判別してください。

- モリナガ アクリルアミド EIA キット（2013年12月製造終了）：現行品#13OCAACE08 まで
- モリナガ アクリルアミド EIA キット（2014年1月発売）：改良品#13DEAACE09 以降

1. 変更点の概要

変更点は構成試薬および測定操作手順となります

構成試薬の主な変更点

（詳細は2ページ「2. 改良品の構成について」をご参照ください）

- I 検体希釈液の容量が減少します。
現行品：50mL → 改良品：13mL

測定操作手順の主な変更点

（詳細は3ページ「3. 改良品の測定操作手順について」をご参照ください）

- 検体抽出液調整時の孔径 0.45 μ m のフィルターでろ過する作業が省略されました。
そのため、孔径 0.45 μ m のフィルターは使用しません。
- 誘導体化反応の容量が、検量線用アクリルアミド溶液および検体抽出液 200 μ L に対して、3-MBA 溶液を 40 μ L となり、誘導体化後に添加する検体希釈液量が 240 μ L に変更となります。
- 誘導体化反応容量の変更に伴い、測定範囲が 42~5400 μ g/kg (ppb) に変わります。

2. 改良品の構成について

品名		容量	数量	現行品からの変更点
A	3-CTBA 固相化プレート	8 ウェル×6 本	2 パック	
B	アクリルアミド溶液 500ng/mL 医薬用外劇物	1.1mL	2 本	
C	3-MBA (3-mercaptobenzoic acid)	48mg	2 本	
D	1N 水酸化ナトリウム*取扱注意*	2.4mL	1 本	
E	ウサギ抗 3-CTBA 抗体溶液	3.5mL	2 本	
F	酵素標識抗ウサギ IgG 抗体溶液	6.5mL	2 本	
G	酵素基質溶液(TMB 溶液)	13mL	1 本	
H	反応停止液(1N 硫酸)*取扱注意*	13mL	1 本	
I	検体希釈液	13mL	1 本	・容量が減少します。
J	洗浄液(20 倍濃縮)	50mL	1 本	
	プレート用フレーム		1 個	
	プレート用ふた		1 枚	

I 検体希釈液の容量が変更となります。

3. 改良品の測定操作手順について

3-1. 検体抽出液の調製法（概要）

1. ホモジナイザーを用いる方法

- 1) 検体はミルミキサー等を用いてできるだけ細かく粉碎・混合し、均質化します。
- 2) 均質化した検体 1g を遠心分離機用チューブに計り取り、精製水 19mL を加えます。
- 3) ホモジナイザーを用いて 15,000rpm で 2 分間攪拌し、ホモジネートとします。
- 4) ホモジネートを 3,000~12,000×g、室温（20℃~30℃）で 20 分間遠心分離し、上清（水層）を得ます。
- 5) 固相抽出カートリッジを用いて、上清を処理します。

2. ミルミキサーを用いる方法

- 1) 検体はミルミキサー等を用いてできるだけ細かく粉碎・混合し、均質化します。
- 2) 均質化した検体 1g をミルミキサーのカップに計り取り、精製水 19mL を加えます。
- 3) カップをミルミキサー本体に取り付け、30 秒攪拌・30 秒停止を 1 サイクルとして 3 サイクルの攪拌を行い、ホモジネートとします。
- 4) ホモジネートを遠心分離機用チューブに移します。以降の操作は、上記の 1. ホモジナイザーを用いる方法に記載の 4)~5) と同様にして検体抽出液を調製します。

3-2. 誘導体化反応（概要）

1. 検量線用アクリルアミド溶液（0、0.69~500ng/mL）および検体抽出液をふた付きポリプロピレン製チューブ（1.5mL）に 200μL ずつ分注し、3-MBA 溶液を 40μL ずつ添加してボルテックスミキサーを用いて混合します。器壁についた液滴は軽く遠心して底に落とします。
2. 37℃で 2 時間静置して反応させます。
3. I 検体希釈液を 240μL ずつ添加して混合し、検量線用アクリルアミド測定溶液、検体測定溶液とします。